

都市交流・地域連携による里地里山の再生活動

ブナの実21事務局 大山 邦博

1. はじめに

只今ご紹介をいただきました山形県最上郡舟形町堀内にある古民家を「ブナの実塾」に再生して、拠点施設として活用し、「里地里山の再生」活動を行っている「ブナの実21」の事務局を行っている大山と申します。

本日は、森林林業技術交流発表会の席上で本会の活動を紹介する機会をいただき、感謝申し上げます。

それでは、「都市交流・地域連携による里地里山の再生」と題して発表いたします。

私たちのグループは前身をラッチン・リパブリックといい、ブナの実21と名称換えを行ったのは、平成9年3月からです。農山村地域の過疎地であっても農業の営みに支えられた地域文化と清らかな水や美しい緑、都会にはない豊かな自然のある町として世界に発信できる「いやしの里」を実証的に進めていこうと結成された会です。

いやしの里とは、地域、行政や各関係団体などとの連携により地域の自然資源、地域文化、食文化の活用を図り都市と農村との交流を行い、自然との共生を図りながら経済活動と結び付いた地域づくりです。

大都会の雑踏の中で暮らし心と体の安らぎを求めている方々が訪れ滞在していただき、本地域で時間の流れを忘れ、都会ではできない体験を通し感動していただき、心身を癒すことのできる地域を目指すものです。

現在の会員数は、40名です。地元堀内小学校エコクラブ24名、賛助企業、団体、個人40名との連携のもと「いやしの里づくり」を実証的に進めている任意団体です。

平成19年に会員である林野庁に勤務している水野さんが発表して、全国森林レクリエーション協会、日本林政ジャーナリストの会 会長賞の受賞、林野庁長官優秀賞を受賞することができました。

今回は、その後「ブナの実21」の活動がどのように発展しているのかをご紹介いたします。

私たちの活動は、この「囲炉裏」から企画立案、実行活動が始まります。



・この炭は、今年再生した炭窯で、作った初窯の炭です。

舟形町について



山形県の東北部、最上郡の南端部に位置し、総面積は119.03平方キロメートル、世帯数1,903世帯、人口6,158人の小さな町。
『若あゆと古代ロマンの里ふながた』がキャッチフレーズ。
町の基幹産業である農業は、水稲単作経営。人と自然に対して優しい農業をめざす「環境保全型農業」を推進。
畑作では、ニラ、トマト、キュウリ、ネギ、アスパラ等の野菜やウルイ、タラノメ、ワラビ等、山菜類の生産に力を入れている。
また、農業の他面的機能を活かし、都市と農村の交流を図るグリーンツーリズム事業を推進。

2. 私たちが活動する舟形町をご紹介します。

舟形町は、最上郡の南端部に位置し、人口 6,158 人の小さな町です。町の基幹産業である農業は、水稲単作経営です。

畑作では、ニラ、トマト、キュウリ、ネギ、アスパラ等の野菜やウルイ、タラノメ、ワラビ等、山菜類の生産に力を入れています。

私達の活動は、町の産業である「環境保全型農業」に付加価値を付ける活動として位置付けています。

3. 「ブナの実21」の活動体系についてご紹介します。

私たちは、「グラントワークトラスト」による地域づくりを担う人づくりを目指し活動を行っています。

4. 「グラントワーク」の仕組みについてご紹介いたします。

ブナの実21がコーディネーターとなり、住民、企業、行政とのパートナーシップによる地域づくり活動を行っています。この仕組みづくりを構築することが、過疎地域町村の振興を図る「キーワード」になると思っています。

《住民の効果》

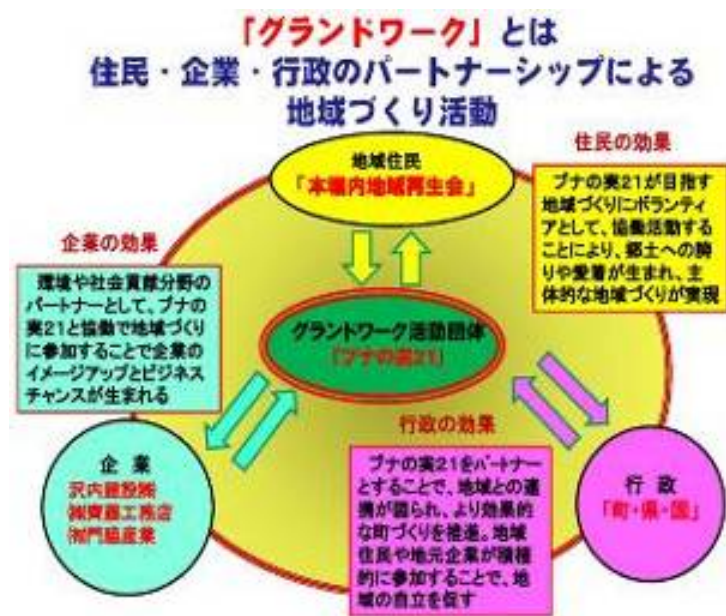
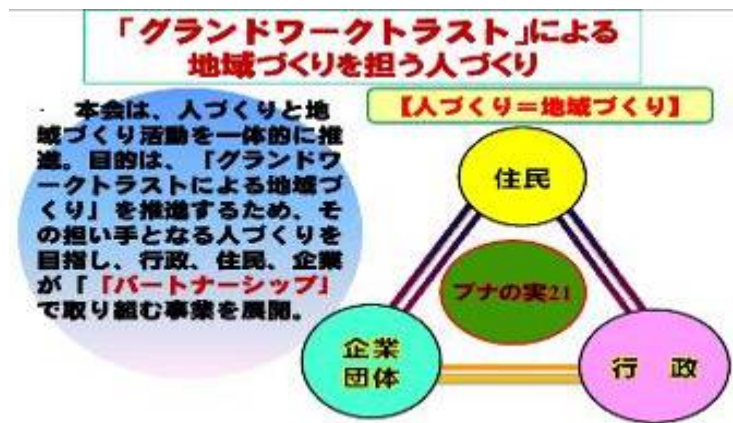
ブナの実21が目指す地域づくりにボランティアとして、協働活動することにより、郷土への誇りや愛着が生まれ、主体的な地域づくりが実現します。

《行政の効果》

ブナの実21をパートナーにすることで、地域との連携が図られ、より効果的な町づくりを推進することができます。また、地域住民や地元企業が積極的に参加することで、地域の自立を促すことができます。

《企業の効果》

環境や社会貢献分野のパートナーとして、ブナの実21と協働で地域づくりに参加することで企業のイメージアップとビジネスチャンスにつながります。



5. ブナの実21の活動理念をご紹介します。

(1) 地域のリーダー育成

あらゆる年代に生涯学習を提供する活動

(2) 単なる学習でなく、実践的な体験を重視・5感で学ぶ活動

(見る、聞く、話す、香り、触れる)

(3) 地域振興と結びつけた特産品開発
人材と産物と食文化を活用した特産品づくり

以上3項目を活動理念としています。

6. 自然と共生する3分野の活動を紹介します。

① 地域のリーダー育成活動として、小・中学校と連携し、自然環境学習を提供しています。

② 地域文化の研究・伝承活動として、都市住民との交流を通して食文化の伝承活動を行っています。

③ 自然資源を活用した環境教育と特産品開発活動を行っています。

ハッチョウトンボやトキ草などの絶滅危惧種が生息する「手倉森湿地」の観察会を通し、森林資源を活用する環境学習を提供しています。

本会の活動・交流拠点施設として、築150年の古民家を再生し、「オカリナコンサート」、「山大フィールドワークの座学、宿泊」、「郷土料理の伝承」など、研修施設に活用しています。

7. 現在取り組んでいる「里地里山の再生」活動を紹介します。

本会は、「手倉森・堂ヶ沢地区の自然環境再生」と「ふながた薬師の森自然環境再生」活動を通し、地域住民・企業・行政とグランドワークを構築して、次世代



「自然と共生する3分野の活動」

①<自然資源を活用した環境教育と特産品開発>
 ②<地域文化の研究伝承>
 ③<自然資源を活用した環境教育と特産品開発>
 ④<地域文化の研究伝承>
 ⑤<自然資源を活用した環境教育と特産品開発>
 ⑥<地域文化の研究伝承>
 ⑦<自然資源を活用した環境教育と特産品開発>
 ⑧<地域文化の研究伝承>
 ⑨<自然資源を活用した環境教育と特産品開発>
 ⑩<地域文化の研究伝承>
 ⑪<自然資源を活用した環境教育と特産品開発>
 ⑫<地域文化の研究伝承>
 ⑬<自然資源を活用した環境教育と特産品開発>
 ⑭<地域文化の研究伝承>
 ⑮<自然資源を活用した環境教育と特産品開発>
 ⑯<地域文化の研究伝承>
 ⑰<自然資源を活用した環境教育と特産品開発>
 ⑱<地域文化の研究伝承>
 ⑲<自然資源を活用した環境教育と特産品開発>
 ⑳<地域文化の研究伝承>
 ㉑<自然資源を活用した環境教育と特産品開発>
 ㉒<地域文化の研究伝承>
 ㉓<自然資源を活用した環境教育と特産品開発>
 ㉔<地域文化の研究伝承>
 ㉕<自然資源を活用した環境教育と特産品開発>
 ㉖<地域文化の研究伝承>
 ㉗<自然資源を活用した環境教育と特産品開発>
 ㉘<地域文化の研究伝承>
 ㉙<自然資源を活用した環境教育と特産品開発>
 ㉚<地域文化の研究伝承>
 ㉛<自然資源を活用した環境教育と特産品開発>
 ㉜<地域文化の研究伝承>
 ㉝<自然資源を活用した環境教育と特産品開発>
 ㉞<地域文化の研究伝承>
 ㉟<自然資源を活用した環境教育と特産品開発>
 ㊱<地域文化の研究伝承>
 ㊲<自然資源を活用した環境教育と特産品開発>
 ㊳<地域文化の研究伝承>
 ㊴<自然資源を活用した環境教育と特産品開発>
 ㊵<地域文化の研究伝承>
 ㊶<自然資源を活用した環境教育と特産品開発>
 ㊷<地域文化の研究伝承>
 ㊸<自然資源を活用した環境教育と特産品開発>
 ㊹<地域文化の研究伝承>
 ㊺<自然資源を活用した環境教育と特産品開発>
 ㊻<地域文化の研究伝承>
 ㊼<自然資源を活用した環境教育と特産品開発>
 ㊽<地域文化の研究伝承>
 ㊾<自然資源を活用した環境教育と特産品開発>
 ㊿<地域文化の研究伝承>

オカリナコンサート 地域学(山大フィールドワーク) 郷土料理の伝承

活動実例紹介

「手倉森・堂ヶ沢地区の自然環境再生」と「ふながた薬師の森自然環境再生」活動を通し、地域住民・企業・行政とグランドワークを構築して、次世代を担う子どもたちへ伝えるため、都市交流・地域連携による「里地里山の再生」活動です。

○片手にスコップ(再生作業)・片手にビール(囲炉裏を囲んでの交流・意見交換会)をもつての里地里山の再生

を担う子どもたちへ伝えるため、都市交流・地域連携による「里地里山の再生」活動です。

《活動を促す合い言葉》

○片手にスコップ（再生作業）・片手にビール（囲炉裏を囲んでの交流・意見交換会）をもつての里地里山の再生

(1) 森林資源の再生活動

山形大学フィールドワークを受入れし、自然は、人間が活用することで里地里山が再生することを実体験を通しての活動を行っています。

○ 植菌活動

- ・シイタケ200本
- ・ナメコ200本

来年参加された学生が食べます。

(食の連携)

○ 本地域の里山は、ナラ枯れの影響で全て枯れてしまう現状を学習し、その対策として、炭焼きの材料やキノコのホダ木として活用し「森林資源を循環する」仕組みづくりを学習します。

(2) 動植物絶滅危惧種の再生活動

会員や地域の方々がボランティア活動に参加して、湿地の保全を行い、大学生が小中学校の児童生徒が学習ができるように案内板の設置と木道の修繕を行い、ブナの実21の会員が案内人となり、自然環境学習を提供します。

《「人」と「人」を連携により次世代を担う子どもたちへ伝える活動》

(3) 地域住民と企業の連携による林道の再生活動を紹介します。

○ 企業が重機を準備し、地域の方々

森林資源の再生
キノコのホダ木や炭焼の材料

森林資源の循環

動植物絶滅危惧種の再生
絶滅危惧種の動植物を保全し、環境学習エリアに再生

絶滅危惧種の再生

林道の再生
手倉森を管理する林道へアスファルト切削材の敷均し活動

耕作放棄地の再生
地域特有の山菜を植付けて、地域振興

行者ニクク畑の再生

がボランティア活動に参加して、林道を再生します。小中学校の児童生徒が学習を行います。

(4) 耕作放棄地の再生活動を紹介し
ます。

地域の特産品開発を目的に耕作放棄地を山菜畑に再生して地域振興を目指す活動です。

(5) 遊々の森での森林保全活動を紹介
します。

平成20年7月31日、山形森林管理署最上支署・舟形教育委員会・ブナの実21が協定を締結、ふながた「薬師の森」と命名しています。

○ 主な保全活動としては、遊歩道の整備湧水の保全・ツリーハウス整備・森林インストラクターの育成・保全活動の発信・「学校林遊々の森」全国子どもサミットに参加しての活動発表

・平成20年度に四国高知県で行われたサミットに堀内小学校児童が参加して活動発表を行ってきました。

○ 森林環境学習活動は、ふるさとの自然の素晴らしさを感じ、ふるさとを愛する心を育むため、実体験を通じた「森林学習」・「森の読み聞かせ教室」・「森林での暮らし方」などの活動を行っています。

① 地元小中学校、都市交流、環境保全団体の森林環境学習の会場として、「オカリナコンサート」や「森の絵本の読み聞かせ活動」、「ブナの森に自生する山菜を使った山菜汁」での昼食会、五

ふながた薬師の森保全活動

○遊々の森（ふながた薬師の森）認定

・平成20年7月31日、山形森林管理署最上支署・舟形教育委員会・ブナの実21が協定を締結、ふながた「薬師の森」と命名・舟形町堀内字三ツ森獅子街道国有林2117号1林小班のうち約2ha

○保全活動

・遊歩道の整備・湧水の保全・ツリーハウス整備・森林インストラクターの育成・保全活動の発信「学校林遊々の森」全国子どもサミット

○森林環境学習活動

主な活動は、ふるさとの自然の素晴らしさを感じ、ふるさとを愛する心を体験を通じた学習で育む
・「森林学習」・「森の読み聞かせ教室」・「森林での暮らし方」など



体験学習を支える保全活動



交流で広がる自然環境保全活動



感を使って森の力を体感する活動を行っています。

- ② 薬師の森の森林環境学習を支えるため、最上森林事務所のご協力をいただき、散策道、階段工、道標の設置を行っています。
- ③ 本会では、森林の保全活動を全国に展開する活動として、都市交流を通し、出前活動により提供しています。

- 平成23年度は、震災の影響で山形へ来ることができなくなったため、山形から4回出向いてキノコ植菌体験や農産物の販売を通し、山形は安全安心な県であることのPR活動を行いました。

- 林野庁から出向している「水野さん」の依頼により震災で被災した陸前高田市の親子が岩手県住田町に避難している施設で、親子の絆づくり、町の復興を目的として「森の積み木広場」を提供しました。その他、東北福祉大との連携により東松島市で被災した授産施設や名取市の子どもを持つ世帯が避難する仮設住宅など、7回の支援を行っています。

- 全国に交流の輪を広めるため自然環境保全団体との意見交換会や山形大学との連携によりフィールドワーク授業を受入れ、「都市交流・地域連携による里地里山の再生地域学講座を開催し、平成23年度の活動は、30回、613名の方々がボランティア活動に参加していただき、「ブナの実21」の活動を支援いただきました。この場を借りて、お礼申し上げます。



8. 海岸林再生プロジェクトについて、お知らせとお願いがあります。

私たちは、平成20年から公益財団法人「オイスカ」に加入し「森の積み木広場」の積み木10,000個をいただき、連携により活動を展開しています。

オイスカは、「海岸林再生10カ年計画」に基づき、被災地住民が取り組む苗木生産活動を支援しますので、ご参会の皆様のご協力をお願いし、ブナの実21の活動紹介を終わります。

